

エコー下肝生検

検査説明書・同意書

【エコー下肝生検の目的と方法】

肝障害の原因や程度を評価するため、もしくは肝内の腫瘍を診断するために肝臓の組織・細胞を採取する場合があります。中空の針を肝臓に穿刺し、抜くことにより、針内に肝臓の組織を採取することができます(生検)。超音波(エコー)で観察しながら生検することにより安全に肝臓の組織を採取することができます。

エコー下肝生検は原則として入院にて行います。

エコーを用い生検を行います。検査後は2-3時間安静にさせていただきます。

【エコー下肝生検の合併症】

内臓に針を刺すという検査の性格上 合併症はゼロではありません。

文献上は重篤な合併 0.06-0.32%の確率です。

- 胸膜炎・肝周囲炎： 穿刺した周囲の炎症を起こすことがあります。微熱や穿刺部の痛みが生じますが、殆どの場合2-3日で改善します。
- 出血： 穿刺部の血腫が生じることがあります。肝内の動脈に針が当たることにより輸血が必要な程度の出血が生じる可能性がまれにあります。
- 胆汁漏：肝内の胆管に針が当たり、穿刺した部位から胆汁が漏れる合併症がまれにあります。胆汁が腹腔内に漏れた場合、かなり強い痛み・炎症反応を引き起こし、手術を必要とする場合があります。
- 他臓器穿刺： 腹部の内臓は呼吸により変動するため、息止めなどの不一致などにより、腎臓・大腸・肺などの他臓器に針が当たることがあります。
- 肝臓の中は超音波で見えやすい部位と見えにくい部位がありますが、見えにくい部位の生検は合併症の発生率が高くなりますし、予定した場所の生検ができない場合があります。

上記内容を説明しました。

平成 年 月 日 検査申込医 科

同意書

- 検査の必要性、内容、偶発症について理解し、本検査に同意します。
- 検査の必要性、内容、偶発症について理解しましたが、本検査には同意しません。

平成 年 月 日

患者氏名

親族・代理人

(続柄)